

「令和7年度あいち環境づくり推進協議会」会議録

日 時：令和7年8月22日（金） 午後2時00分から午後3時30分まで

場 所：愛知県庁本庁舎6階 正庁

出席者：構成員 13人、事務局職員 12人、傍聴者 0人

概 要：

1 開会あいさつ

愛知県 武田環境局長

2 議事

（1）第5次愛知県環境基本計画の進捗・構成員との取組事例について

資料1から資料3に基づき、事務局から説明を行った。

【主な質疑・意見等】

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

資料3の1ページの一番下「あいち脱炭素経営支援プラットフォーム」について、昨年、中経連では会員にCO₂削減の排出量算定が出来ているかアンケートを取ったが、大企業の大部分は出来ているものの、中小企業では、「算定しても確かであるか分からない。」、「算定した後どのような方法で活動を推進していけばよいか分からない。」という声が多かった。

紹介のあった活動は、当会員のニーズに沿ったものだと思う。伴走型省エネ診断もそうだが、特に脱炭素経営体制構築コンサルティングでは、やる気はあるけれどもどうしていいか分からない経営者に参考になると思う。当会員にPRする機会があれば、実績を増やしていく可能性が高いと思う。やりたいという会社が増えていくと、CO₂削減に向けた有効な施策になると思う。

しかし、先日、県事務局に説明を聞いたところ、コンサルティングは予算上の制約もあり1件しか募集がないとのことであった。残念ながら1件では会員に紹介しづらい。

（事務局）

伴走型省エネ診断は、昨年度23社、今年度26社実施している。他の省エネ診断事業も含めて事例も多い。一方、コンサルティングは、他事例もなく現在2年目ということで手探りでやっており、すぐに1社から2、3社と増やすことは難しいが、今後も進めていきたいと考えている。

（愛知県 武田環境局長）

コンサルティングは、予算上は1社になっているかもしれないが、必要に応じて増やしていければと思う。

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

中経連のエネルギー環境委員会の下部機関として、各社の部長クラスが集まる専門委員会を昨日開催した。その中で、行政のCO₂削減支援活動を利用したり、傘下の中小企業に紹介したりといった事例があるか尋ねたところ、大企業が対象になっていない事業なので情報としてキャッチできておらず、傘下のグループ会社、関係会社、取引先などへ情報提供した事例もなかった。非常によい活動であるため、中小企業に情報が届くようなPRをお願いしたい。

（NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長）

資料3の4ページ、生態系ネットワーク協議会との連携について、当協会は昨年度、渥美半島の協議会に加盟した。現在は4つの協議会に加盟している状況である。

資料1の環境基本計画では、SDGsの達成に向けて2030年度の目標が定められているが、SDGsの17のゴールについて、愛知県で進んでいること、まだ進んでいないことなど状況を教えてほしい。

（事務局）

SDGsの17のゴールについて、貧困問題など様々な課題があり、一概にどれが進んでいるかをお答えするのは難しい。例えば地球温暖化対策についても、進んでいる部分もあれば、まだまだこれからという部分もある。環境分野である気候変動、エネルギー、生物などの課題については、環境部局としてしっかりと取組を進めていきたい。

（2）構成員からの取組紹介

・中部経済連合会社会実装推進部の活動について

資料4に基づき、一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長から説明があった。

【主な質疑・意見等】

（愛知県 武田環境局長）

社会実装推進本部では、カーボンニュートラルの実現に向けて脱炭素技術の社会実装を名古屋大学とも連携しながら実施していくという御説明があったが、企業の方から、大学が研究している技術を実装していくのは難しいといった声をお聞きすることがある。一方、企業、特に大企業は、自らのニーズを発信することが難しい場合もあると思う。県でも環境イノベーションプロジェクトに取り組んでいるため、中経連さんから、アドバイスや苦労している点などのお話を伺いたい。

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

直接的な答えになるか分からないが、中経連としては、今回紹介したシンポジウムを、まさに学と産をつながりやすくする機会と位置づけている。シンポジウムの前半やラボブース展示は、中に入らないと見えない普段の研究が見える化するもので、最終的には第三部の情報交換会で、学と産が名刺交換して具体的な話をするすることで、繋がっていけるものになれば良いと考えている。

・環境創造研究センターの取組について

資料5に基づき、一般社団法人環境創造研究センター 清本専務理事から説明があった。

【主な質疑・意見等】

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

当会員企業にも助けとなる事業だと思う。経営者には、省エネ診断とか省エネというキーワードは刺さりにくいということも聞く。どの様にすれば、経営者の行動変容を促したり、関心を持っていただけたりするか、アドバイスがあれば伺いたい。また、診断後の連絡調整会議に信金や商工会が入っているが、支援側がずっとフォローしていくことは難しいので、その後は信金や商工会がフォローを継続していく仕組みになっているのか。

（一般社団法人環境創造研究センター 清本専務理事）

経営者に浸透させていくために、最後に行う報告会を担当者に対してというよりも、企業に対しての報告と捉え、できれば経営者、そして、省エネ担当者、予算を動かす部署に集まってもらい、社内研修的に実施するという仕組みにしている。

事後のフォローは、連絡調整会議に地元自治体、商工会議所、金融機関に

入ってもらうことで、診断を希望する企業の募集にもつながる。また、診断結果を今後実行しようとする資金も必要となってくるので、地元の信金などがその後の相談相手にもなる。前半は省エネ支援、後半は経営支援を行うため、伴走支援という形が取れていると思う。

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

経営者から、診断をやった良かったという反応はあるか。フォローの実例を伺いたい。

（一般社団法人環境創造研究センター 清本専務理事）

診断前は、どういうことをやるのか、やっても意味があるのかと懸念されている経営者もいる。報告会では、エネルギーがどういうところでどうやって使われていて、CO₂に換算するとどれくらい出ているのかという診断結果を示すことで、現状把握が可能になる。それを受けての改善提案では、その企業特有の課題、経営の体質などによって出来ることと出来ないことがあり、良い提案をしても企業が取り組まなければ意味がないので、できる限りニーズにあった提案をするよう心掛けている。

（NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 齊藤会長）

今回紹介いただいた取組は令和5～6年度だが、令和7年度にも計画されているのか。環境省補助事業としては事業者支援事業にあたるが、別の支援事業も行っているのか。

（一般社団法人環境創造研究センター 清本専務理事）

令和4年度は豊田市の脱炭素スクール事業と連携し、令和7年度は、みよし市の脱炭素プラットフォーム事業と連携してウォークスルー診断を実施しているところである。

環境省の補助事業「地域における地球温暖化防止活動促進事業」は、各県に設置された地球温暖化防止活動推進センターの事業を対象としている。各センターが実施するメニューは多様で、今はデコ活につながる事業や、事業者支援につながる事業が多い。当センターでは3つの柱で事業を行っており、1つ目は御紹介した事業者支援事業、2つ目は北名古屋市と連携してごみ減量のビフォー・アフターを計測するなど、自治体と連携してごみ減量や食品ロス削減を通じCO₂削減につなげる事業、3つ目は住宅の断熱、エコ商品、省エネ効果の高い家電商品などを選んでもらうような県民への啓発事業を

行っている。

（愛知県 武田環境局長）

様々な取組があるので、事例集を作成するなど横展開が図られると良いと思う。

- ・ あいち環境イノベーションプロジェクトについて
 - ・ カーボンリサイクルプロジェクト及びペロブスカイト太陽電池普及拡大プロジェクトについて
 - ・ 生物多様性保全に関する取組について
 - ・ あいちサーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームについて
 - ・ あいちエコアクション・ポイント事業及び環境学習事業について
- 資料 6 から資料 10 に基づき、事務局から説明を行った。

出席者からの質疑等はなし。

（３）その他

資料 11 及び資料 12 について、事務局が説明を行った。

環境省中部地方環境事務所 猪岡環境対策課長から、同事務所が開催するイベント情報の紹介があった。

【主な質疑・意見等】

（一般社団法人中部経済連合会 宮澤社会実装推進部担当部長）

11 月に予定されている「中小企業向けあいち省エネセミナー」は、当会から参加可能か。

（事務局）

参加可能である。まもなく募集を開始するので、希望があればお知らせいただきたい。

以上